

会議報告

2005年日中経済協力会議於瀋陽

ERINA客員研究員 成実信吾

「2005年日中経済協力会議於瀋陽」が2005年5月25-26日中国遼寧省瀋陽市で開催された。この会議は日中東北開発協会が毎年開催している会議である。

【会議について】

今回で5回目になるこの会議は、毎年日中両国の「東北地方」で開催され、本年は2000年の第一回開催地である瀋陽市で再び開催された。

会議には、日本から中国駐在者を含め177名、中国側は瀋陽市、遼寧省、吉林省、黒龍江省、内モンゴル自治区等から238名、合計415名が参加した。浅野宮城県知事や増田岩手県知事も日本から参加した。

会議初日は、許衛国遼寧省副省長の開会の挨拶に続き、陳政高瀋陽市長、渡里日中東北開発協会会長、大河内総領事の挨拶があり、その後は日中両国行政者の講演が続いた。

午後は、瀋陽市副秘書長と吉田ERINA理事長（日中東北開発協会副会長）の司会で日中両国の企業の代表が経済協力についてのパネルディスカッションを行った。中国側のパネリストはフフホト市、ハルビン市、長春市、大連市及び瀋陽市の行政担当者、日本側は、(株)東芝、トヨタ自動車(株)、(株)東京三菱銀行、(株)みずほコーポレート銀行、三井物産(株)、伊藤忠商事(株)、日本通運(株)、そして山九(株)の中国関係責任者であった。中国側は、自分の市の紹介、日本側は自社の中国、特に東北部への取り組みを紹介した。

パネルディスカッションでは、日本側参加者から瀋陽での自動車部品の技術協力について申し出などが出て、日中双方の強い協力の姿勢が感じられた。

2日目は、投資、IT、運輸・観光、地域協力の分科会が開催され、それぞれの会場に分かれて討議が行われた。

【運輸・観光分科会について】

運輸・観光分科会は、「北東アジア、特に中国東北地域の物流及び観光の発展をめざして」というテーマで開催され、日中双方の専門家が、物流や観光の面から発表を行った。

物流面の発表のポイントは

内モンゴルのハイラルに大規模な（20ha）貨物中継基地を建設して物流を振興すること

瀋陽に保税物流団地を建設し、大連で通関していたものを瀋陽で出来るようにすること

中国の国内輸送会社が効率的な輸送システムを構築しつつあること

観光面のポイントは

米中航空協定で米国は中国東北地域に自由に乗り入れ可能となったが、日中間では自由化はまだ進んでいないこと

瀋陽の棋盤山国際観光開発区では外資を導入して様々な観光施設の整備を目指していること

等が発表された。

最後に北東アジア域内の観光交流を盛んにするため、北東アジア観光マスタープランの策定が提案された。

【所見】

会議では、総じて中国側、特に瀋陽市が日本からの投資や技術支援を呼び込むことに熱心な姿勢が読み取れた。4月に北京や上海で発生した反日暴動の余波は全く感じられず、友好ムードに終始した二日間であった。

物流・観光分科会には、現地の人たちが数十人参加し、講師の話に熱心に聞き入っていた。物流という、中国では始まってまだ日の浅い事業に対する強い関心が感じ取れた。

日本企業の東北三省への進出は、大連が圧倒的で、大連以北は瀋陽といえども、大連に比べるとごく僅かである。その理由についての分析が無かったことが残念であった。大連には日本企業を引き付ける何かがある。それを突き止め、大連のそれを上回れば、日本からの投資はどんどん増加すると思うが、その点に触れる人がいなかったのが残念であった。